楔狀骨小管(Canaliculi sphenoidales)ニ就テ

(昭和五年四月廿六日受附)

金澤醫科大學解剖學教室(岡本教授指導)

岩田惣七

緒言

楔狀骨ハ後頭骨基底部ト共ニ頭蓋ノ底ヲナシ頭蓋内ニ出入スル多數ノ血管或ハ神經ヲ通ズル管孔ヲ有ス、卽チ正圓孔、卵圓孔及ビ棘孔ハ其ノ主ナルモノナリ、此等ノ管孔ハ殆ンド常ニ存在シ甚ダ稀ニ其ノ異常閉鎖ヲ來セルモノアレドモ(Weber)時ニ卵圓孔及ビ楔狀骨小舌ノ間ニ於テ一ツノ異常管孔ヲ見ルコトアリ。Rauber-Kopschハ該管孔ニ對シ楔狀骨小管(Canaliculi sphenoidales)ナル名稱ヲ附シ彼等ノ教科書ニ於テ記載セルモ、他ノ多數成書ニ於テハ全ク何等ノ記載ナク、勿論其ノ詳細ナル解剖學的研究ニ至リテハ余ノ淺學未ダ之レアルヲ見ズ。於茲余ハ金澤醫科大學解剖學教室所藏ニカヽル晒齊北陸地方邦人頭蓋ニ就テ該小管ノ詳細ナル研究ヲ企テ邦人解剖學ノ一端ヲ補遺セントス。

第一章　調査成績

楔狀骨小管(Canaliculi sphenoidales)ハRauber-Kopschノ教科書記載ニ據レバ楔狀骨舟狀窩及ビ卵圓孔下口トノ間ニ於テ始マレル微細ナル神經管ニシテ骨内ニ於テ二枝ニ分レ一ツハ翼狀口蓋管ニ達シ、他ハ楔狀骨小舌及ビ卵圓孔ノ

第一表　楔狀骨小管ノ頻度ノ性的關係

性別	大孔	中孔	小孔	計
♂	7(2.87%)	33(13.52%)	95(38.93%)	135(55.33%)
♀	3(2.21%)	6(4.41%)	72(52.94%)	81(59.56%)
不詳	2(5.00%)	4(10.00%)	14(35.00%)	20(50.00%)
計	12(5.08%)	43(18.22%)	181(76.69%)	236(56.19%)

第二表　楔狀骨小管ノ頻度ノ側別關係

側別	大孔	中孔	小孔	計
右側	3(2.78%)	21(19.44%)	84(77.78%)	108(51.43%)
左側	9(7.03%)	22(17.11%)	97(75.78%)	128(60.95%)
計	12(5.08%)	43(18.22%)	181(76.69%)	236(56.19%)

該管ノ大サヲ小豆大以上ナルモノヲ大孔、粟粒大或ハ其レ以下ノモノヲ小孔、大孔ト小孔トノ中間ノモノヲ中孔トセバ大孔ニ屬スルモノハ甚ダ稀ニシテ僅カニ一二例(五・〇八%)ヲ認ムルニ過ギザルモ中孔ハ四三例(一八・二二%)、小孔ハ一八一例(七六・六九%)ニシテ最モ多ク其ノ大部ヲ占ム。

之レガ男女性間ノ關係ハ大孔ニ屬スルモノハ男女性共ニ略〻同樣ニシテ何等ノ差異ナキモ中孔ハ男性ニ於テ著シク、小孔ハ女性ニ於テ著シク多數ナリ。

而シテ偏側ニ來レルモノノ中、右側ニノミ存在スルモノハ二三例(三四・八五%)、左側ニノミ存在スルモノハ四三例(六五・一五%)ニシテ偏側性ナルモノハ左側ニ於テ著シク多數ナリ。

楔狀骨小管ノ兩側共ニ存スルモノハ八五例(四〇・四八%)ニシテ偏側ニノミ來レルモノハ六六例(三一・四三%)ヲ算シ兩側ニ來レルモノ遙カニ多數ナリ。

該小管ノ存在スルモノハ二三六個(五六・一九%)ニシテ檢査楔狀骨總數ノ半數以上ヲ占メ、中男性一三五例(五五・三三%)、女性八一例(五九・五六%)ニシテ稍〻女性ニ於テ存スルモノ多キヲ認ム。

余ガ頭蓋頂ヲ鋸斷セル頭蓋ニシテ他ニ何等ノ病的變化ヲ認メザル北陸地方邦人頭蓋二〇一個(男性一二二個、女性六八個、性不詳二〇個)卽チ四二〇楔狀骨ニ就テノ調査成績ハ第一表ニ示セルガ如ク

問ノ大翼腦面ニ開口シ楔狀骨小管神經(Nn. canaliculi sphenoidales)ヲ通ズト云フ。(附圖參照)

第三表　楔狀骨小管ノ頻度並ニ大サノ男女性ニ於ケル側間關係

管ノ大サ	♂		♀		不詳		計
	R	L	R	L	R	L	
大孔	1(1.64%)	6(8.11%)	1(2.70%)	2(4.55%)	1(10.00%)	1(10.00%)	12(5.08%)
中孔	14(22.95%)	19(25.68%)	4(10.81%)	2(4.55%)	3(30.00%)	1(10.00%)	43(18.22%)
小孔	46(75.41%)	49(66.22%)	32(86.49%)	40(90.91%)	6(60.00%)	8(80.00%)	181(76.69%)
小計	61(45.19%)	74(54.81%)	37(45.68%)	44(54.32%)	10(50.00%)	10(50.00%)	236(56.19%)
累計	135(55.33%)		81(59.56%)		20(50.00%)		

小孔ハ女性ニ於テ多數ニシテ男性ハ女性ニ比シ比較的大ナル楔狀骨小管ヲ有スルモノ多シ。

而シテ左右側間ノ關係ハ第二表ニ示スガ如ク大孔ハ左側ニ於テ著シク、中孔並ニ小孔ハ右側ニ稍〻多シ。卽チ該小管ハ左側ニ來ルコト多ク而カモ大孔ナルモノ多クシテ右側ハ其ノ存在スルモノ尠ク而カモ小孔ナルモノ多シ。男女性ニ於ケル左右間ノ關係ハ第三表ニ示セルガ如ク大孔ハ男女性共ニ左側ハ右側ニ比シ多シ。然レドモ中孔並ニ小孔ハ男女性ニ依リテ稍〻差異アリ。卽チ中孔ハ男性ニ於テハ左側ニ多ク、小孔ハ右側ニ多數ナルモ女性ニ在リテハ中孔ハ右側ニ多ク小孔ハ左側ニ多クシテ男性ニ於ケルト全ク相反ス。

要之、楔狀骨小管ハ Rauber-Kopsch ヲ除ク幾多ノ解剖學成書ニ記載ナク甚シク稀有ナルモノノ如キモ尠クトモ余ガ本邦人頭蓋ニ就キ調査セル成績ヨリ之レヲ見レバ其ノ大サ小豆大以上ナルモノハ甚ダ稀ナルモ檢査頭蓋總數ノ七一・九%ニ於テ在存ス。

楔狀骨小管ハ通常楔狀骨小管神經ヲ通ズル小管ナレドモ該管ヲ缺如スルモノハ從ツテ該神經モ缺如スルモノナランカトノ問題ハ輕々ニ解決シ得ベキモノニアラズ。尠クトモ精密ナル多數ノ屍體解剖及ビ種々ナル動物ニ於ケル比較解剖學的研究ノ後始メテ論斷スルヲ許サルベキモノナリ。然レドモ余ガ行ヒタル淨齒頭蓋ニ就テノ結果ヨリ之レヲ見レバ該管ノ大ナルモノハ卵圓孔トノ距離大ナルモ、小ナルニ從ヒテ漸次卵圓孔ノ邊緣ニ近ク存スルヲ經驗セリ。余ハ楔狀骨小管ヲ缺如セル頭蓋ニ於ケ

ル楔狀骨小管神經ノ經路ハ卵圓孔ニシテ該神經ハ夫レノ場合ニ於テモ存在スルモノナリト思惟ス。之レガ決定ハ猶將來ノ研究ニ俟ツ矣。

第二章　總　括

余ガ北陸地方邦人頭蓋二〇一個(男性一二二個、女性六八個及ビ性不詳二〇個)ニ就キ楔狀骨小管孔ヲ調査セル結果ヲ總括スルニ次ノ如シ。

一、楔狀骨小管孔ノ存在スルモノハ總數二三六例(五六・一九%)ニシテ檢査楔狀骨總數ノ半數以上ヲ占メ、中男性一三五例(五五・三三%)、女性八一例(五九・五六%)ニシテ該孔ハ敢テ稀有ナルモノニアラズ。

二、楔狀骨小管ハ兩側性ニ存在スルモノ多ク(兩側性四〇・四八%、偏側性三一・四三%)、而シテ偏側性ナルモノハ左側(右側三四・八五%、左側六五・一五%)ニ多シ。卽チ該孔ハ左側ニ存スルコト多キヲ認ム。

三、該孔ノ大サハ大孔一二例(五・〇八%)、中孔四三例(一八・二二%)、小孔一八一例(七六・六九%)ニシテ大孔ナルモノ(小豆大或ハ其レ以上)ハ甚ダシク稀ニシテ小孔(粟粒大或ハ其レ以下)其ノ大部ヲ占メ、一般ニ男性ハ女性ニ比シ、左側ハ右側ニ比シ比較的大ナル管孔ヲ有ス。

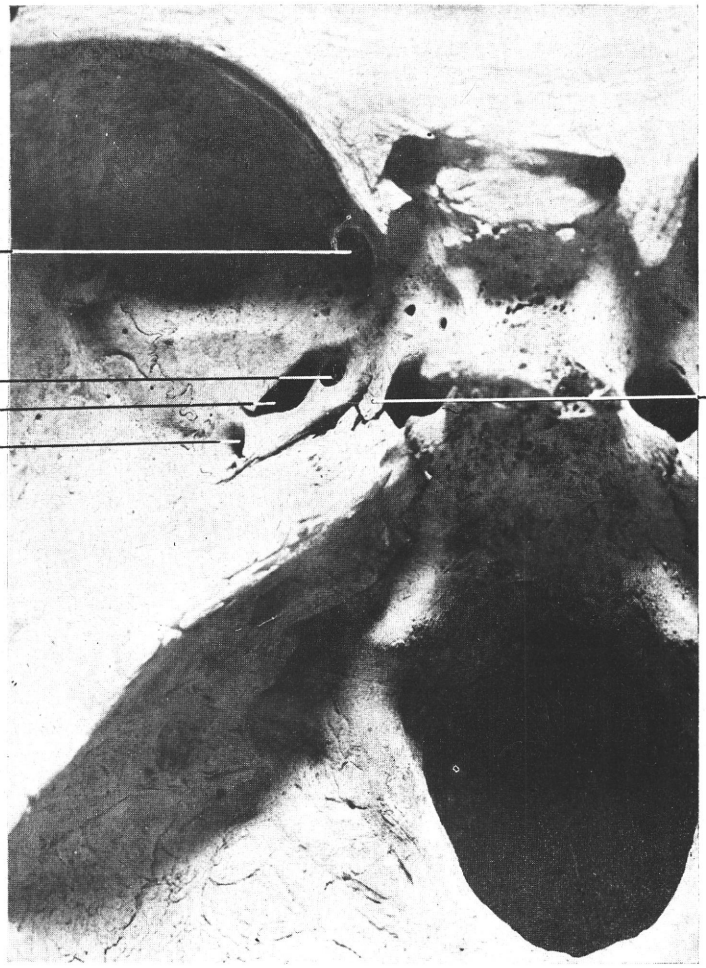
擱筆ニ臨ミ御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリタル岡本教授ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス。

文　獻

1) **Rauber-Kopsch,** Lehrbuch und Atlas der Anatomie des Menschen. 12. Aufl., Bd. 2, 1923. Leipzig.　2) **佐口,** 骨學及靱帶學(金子解剖學第二篇)、大正八年、東京。　3) **Weber, A.,** Les variations ethniques du trou ovale du sphénoide humana. Bibliogr. anat. Paris. 1906 (Zit. von Schwalbe's Jahresbericht)

附圖說明

頭蓋內面ヨリ撮影、實物ノ約二倍半大(標本番號二九一號、女性、八五歲、左側)

C. S.　楔狀骨小管
F. O.　卵圓孔
F. S.　棘孔
L. S.　楔狀骨小舌
F. R.　正圓孔

岩田論文附圖